

令和4年度北海道岩見沢高等養護学校 第1回学校運営協議会記録

1 日 時 令和4年6月29日(水) 13:30～15:20

2 場 所 北海道岩見沢高等養護学校 校長室

3 次 第 司会進行：橋本教頭 記録：総務部

	開会
13:30～13:45	校長あいさつ 運営者自己紹介（教頭・事務長・総務部長） 各学校運営協議会委員の紹介 日程説明
13:45～14:10	授業見学
14:10～15:20	説明と意見聴取 （1）令和4年度の経営方針について説明（櫻田校長） （2）本校の教育活動について説明（橋本教頭） 質疑応答
15:20～	協議「地域とのつながりを深め、広げる学校」について 諸連絡 校長あいさつ 閉会

4 協 議 「地域とのつながりを深め、広げる学校」について

（1）令和4年度学校経営方針[学校長]（資料参照）

- ・教育理念にある学校のすがたをめざし、教育活動を推進していく。
- ・教科指導と特別支援教育どちらの専門性も持ち合わせた教職員をめざす。
- ・時間の自立活動を中心として、卒業後セルフケアができるような指導をすすめている。
- ・岩見沢の地で本校が果たす役割を考え、また地域とのつながりを深めていけるような活動をすすめていきたい。
- ・アフターコロナではなく、ウィズコロナ、ポストコロナの中で教育活動の充実を図っていく。
- ・出口の教育としてどう社会に送り出していくか、またどう次につなげていくかを考えながら生徒たちにとって意義ある3年間となるようにしたい。

(2) 本校の教育活動[橋本教頭] (資料参照)

- ・学校要覧より、居住地や起因疾患等、障がいの程度について説明を行う。
- ・本校は高等学校に準じた教育を生徒の能力や特性に合わせて行っている。
- ・評価については、2, 3 年生は評価は10段階、評定を5段階としている。今年度の1年生の評価、評定については新学習指導要領にそった評価、評定で行う。
- ・進路に関する行事も行っている。令和3年度の卒業生の進路は進学した生徒の割合が例年よりも高い。

(3) 各委員からの意見

- ・とにかく、岩見沢を好きになってほしい。生徒に岩見沢をアピールする場を作りたい。
「探究の時間」があれば、地域興しをテーマにし、岩見沢をアピールしていけるとよい。
岩見沢にとどまってほしいし、「この町いいよね」と思ってもらえる取り組みの機会をつくっていききたい。
 - ・岩見沢の人口減少に対しての危機感がある。小中の新しい性教育のカリキュラムを作っており、本校の生徒にも見てもらいたい。
 - ・地域でどんなことをしているのかを、生徒に見てもらいたい。生徒の働きたいという気持ちをもってもらえるきっかけを作りたい。
 - ⇒コロナ前は街の福祉づくりとして高校生がイベントの準備をしていたようだ。高校生の活動は街づくりにつながっていくと感じている。
 - ・障がいが増えてきているように感じる。高校生は多感な時期で感性も鋭い。生徒の考えや作品を発表する場が市内のいたるところにあっていい。岩見沢での思い出作りができればと思うし、そのお手伝いをしたい。
 - ・東小学校は児童数が減ってきており、来年度の1年生は1学級編成になることも想定されている。地域活性化のために学校が拠点になりたい。前庭を地域の方に活用してもらいたいが、予算がない。本校でいすを作ってもらえないかと考えている。ざっくばらんに交流していきたい。特別支援学級の生徒のサポートやALTの交流などできるところから取り組んでいきたい。また、芸術的行事があるならば、予算がないので便乗させてもらえたらと考えている。
 - ・3D プリンターを使って公園のいすを作ろうという話がある。工業科の生徒と一緒に作るかたちをモデルケースでやってみてはどうか。
⇒東小と一緒にPTA等にもはたらきかけて、プラスチックを集める活動はできる。
⇒プログラミングが難しければ、手書きでも良い。どうやれるかは私たちが考えるところ。
自己表現という意味でもよい。
- ※ 次回は10月を予定している。